

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 5 月 25 日現在

機関番号：32406

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K03283

研究課題名(和文) 琉球政府を中心とした戦後沖縄政治の再構築

研究課題名(英文) Reconstruction of the Politics of Postwar Okinawa, Focusing on the Government of the Ryukyu Islands

研究代表者

平良 好利 (TAIRA, Yoshitoshi)

獨協大学・法学部・特任助手

研究者番号：40614863

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本共同研究によって13名の関係者にインタビューを実施することができ、その証言記録を保存することができた。また、その証言記録を1冊の報告書としてまとめることができ、同報告書を日本国内の大学図書館、沖縄県内の公立図書館、関連分野の研究者などに寄贈することができた。13名の関係者は以下の通りである。儀間文彰、大城盛三、照屋義実、仲本興成、稲嶺恵一、新垣雄久、仲本安一、平良哲、比嘉幹郎、大田昌秀、嶺井政治、宮城宏光、渡口彦信。

研究成果の概要(英文)：Through this joint research, we were able to conduct interviews with 13 relevant parties, and save records of their testimonies. Also, we were able to compile those testimony records into a single report, and donated this report to university libraries in Japan, official libraries in Okinawa Prefecture, and researchers in related fields. This relevant parties are as follows: GIMA Bunsho, OSHIRO Seizo, TERUYA Yoshimi, NAKAMOTO Kose, INAMINE Keichi, ARAKAKI Takehisa, NAKAMOTO Aichi, TAIRA Tetsu, HIGA Mikio, OTA Masahide, MINEI Masaharu, MIYAGI Hiromitsu, TOGUCHI Hikoshin.

研究分野：政治学

キーワード：琉球政府 沖縄政治 沖縄の保守 西銘県政 稲嶺県政 沖縄の経済人

1. 研究開始当初の背景

申請者は2012年に『戦後沖縄と米軍基地「受容」と「拒絶」のはざま 1945 - 1972年』を法政大学出版局より刊行し、そのなかで沖縄米軍基地問題の起源と展開について考察した。この研究より得られた知見は、基地問題だけでなく日本復帰問題をはじめ多くの政治問題において琉球政府立法院議員が果たした役割が極めて大きかったという事実である。琉球政府のなかの行政機関は「行政府」と呼ばれ、その長には「行政主席」が米軍によって任命された。また、一方の立法機関は「立法院」と呼ばれ、その立法院議員(29~32名)は選挙によって選出された。よって、沖縄で唯一民意を代表する存在が立法院議員であり、沖縄政治の様々な重要局面で彼らが重要な役割を果たしたのである。

しかし、上記の研究からみえてきた課題は、この立法院議員の役割だけでなく、行政主席の役割を含め、いまだ琉球政府そのものの実態が十分に解明されていないということであった。この琉球政府の上位には「米国民政府」という米軍の統治機関があったが、その米国民政府と琉球政府が実際どのような関係にあったのかもいまだ未解明である。また、琉球政府と日本政府がどのような関係にあったのかも、とりわけ1972年の日本復帰の前後にどのような関係にあったのかも、いまだ十分に解明されていない。

27年間の米国統治下の沖縄を扱った従来の研究は、大きく分けて、日本政治外交史や日米関係史の分野からの研究と、地域政治史の分野からの研究が大部分を占めており、前者は1951年のサンフランシスコ講和条約をめぐる日米間の政治過程や、72年の沖縄返還をめぐる日米交渉に焦点があてられ、後者は沖縄内部の政治の動きを主として大衆運動の視点から捉えるものが多くを占めていた。よって、琉球政府そのものに焦点をあてた研究はほとんどなく、研究史上、大きな空白となっている。

ただ、研究分担者の川手撰が2012年に『戦後琉球の公務員制度史』を東京大学出版会より刊行し、はじめて琉球政府の公務員制度の実態を明らかにした。だが、その先駆的研究をした川手でさえも、本書の終章で「ガヴァメントとしての琉球政府を総体的に解明していく必要がある。これら仕事をひとつひとつ丹念に積み重ねていくことで、私たちはようやく、きちんとした...琉球政府像を手にすることができる」(356頁)と述べているように、琉球政府の公務員制度に関する基礎データとその実態を明かにしたものの、いまだ立法院を含めた琉球政府そのものの全体性を解明するには至っていない状況にある。

よって、琉球政府という未知の研究対象を考察の中心に置き、戦後沖縄政治を多角的に考察しようとしたのが、本研究開始時の背景にある。

2. 研究の目的

本研究は、いまから40年以上も前に存在した「琉球政府」という立法、行政、司法の三権を兼ね備えた中央政府を分析の軸に据え、戦後沖縄政治の再構築を図ろうとするものである。より具体的に言えば、政治学、行政学、歴史学の分析手法を多角的に用いて、琉球政府の実態を解明すると同時に、その琉球政府を戦後沖縄政治に位置づけることが本研究の目的である。また、日本の政治・行政と関連づけて、その歴史的意義や可能性を検討することも、本研究の目的である。特に本研究では、琉球政府を知る関係者が年々少なくなっていることへの危機感を背景として、その関係者へのオーラルヒストリーを積極的にを行うことによって、その証言記録を残すことを重視した。

3. 研究の方法

本研究は3年間とする。政治外交史の角度から平良が、法制度史・アーカイブズ学の角度から高江洲が、政治社会史の角度から櫻澤が、行政学・公務員制度の角度から川手がそれぞれ担当し、これらを統合させていく。この4つの角度から行う研究にとって最も基礎になるものが、関係者へのインタビューによって得られる証言記録である。したがって、それぞれが別個に、あるいは共同で行うインタビューこそが、本研究の最も大きな部分を占める。また、このインタビューによって得られた知見を共有し、学問的な議論を深めていくために、研究会も開催する。

インタビューによって得られた成果は、証言記録集として刊行する。

4. 研究成果

助成期間は2015年度から2017年度までの3年間であったが、その事前の研究期間を含めると、5年におよぶ研究プロジェクトであった。

当初は琉球政府の実態解明を主たるテーマとし、琉球政府関係者にインタビューを実施し、その証言記録を残すことを目的とした。その背景には、「我々は琉球政府を知らない」という問題意識があり、また琉球政府を知る関係者が年々少なくなっていることへの危機感もあった。

しかし、こうした意図で始めた共同研究であったが、研究を進めていくうちに、琉球政府で要職にあった方々が日本復帰後も沖縄県庁で重要なポストに就き、しかも1978年に誕生した西銘(順治)県政では副知事などの要職に就き同県政を支えたことや、あるいはその西銘県政の誕生自体に深くかかわっていたことなどがわかり、研究対象を西銘県政にまで広げることとなった。さらにその西銘県政を研究していくと、1998年に誕生した稲嶺(恵一)県政の歴史的な位置づけが問題となり、同県政も研究対象とすることになった。西銘・稲嶺両県政はいわゆる「保守県政」と言われてきたが、その「保守県政とは一体何だったのか」という課題が生み出され、当初予定していたよりもテーマを広く設定し直

した。

テーマが広がることへの懸念はあったものの、このように広げた背景には、いまから40年以上も前に存在した琉球政府の関係者はもちろんのこと、1980年代の西銘県政期に活躍した関係者でさえ、年々少なくなっていることに危惧の念を抱いたことがあった。また稲嶺県政にしても、その誕生から数えるとすでに20年近くが経過しており、現時点で関係者にインタビューを実施しなければ、その歴史的証言はそれこそ“歴史”の彼方に消えてしまうのではないかという思いもあった。

かくして本研究は、「琉球政府とは一体何だったのか」という課題から、「西銘・稲嶺両保守県政とは何だったのか」という課題を経て、より大きなテーマとして「沖縄の保守とは何か」という課題を発見するに至った。

また、こうした新しい視点から沖縄の革新勢力をいま一度捉え直してみると、それがどう見えるのかについても我々の興味の抱くところとなった。さらに沖縄の保守勢力を支えたといわれる沖縄の経済界が一体どのようなものであり、それを歴史的にどう位置づければよいのかも我々の関心事となった。

そこで沖縄の保守政治家や行政官だけでなく、革新勢力の関係者や経済人にもインタビューを実施し、その証言記録を残すことに努めた次第である。

以上の問題関心のもと、我々のインタビューに応じてくださった方々は、次の13人である(括弧内には主要な肩書とインタビューの実施日を記載)。

儀間文彰氏(元琉球政府厚生局長、2013年8月2日、2014年8月12日、2016年2月15日)、大城盛三氏(元琉球政府行政主席[屋良朝苗]特別秘書官、2014年2月24日)、照屋義実氏(照正組代表取締役社長、2015年8月7日)、仲本興成氏(仲本興業創業者、2015年8月6日)、稲嶺恵一氏(元沖縄県知事、2015年12月18日、2016年2月15日、2016年4月25日、2016年7月4日)、新垣雄久氏(元沖縄県副知事[西銘県政]、2015年12月19日、2016年2月16日、2016年10月14日)、仲本安一氏(元沖縄県議会議員、元沖縄社会大衆党委員長、2016年2月15日)、平良哲氏(元沖縄県議会議員、元自民党沖縄県連幹事長、2016年2月16日)、比嘉幹郎氏(元沖縄県副知事[西銘県政]、2016年4月24日)、大田昌秀氏(元沖縄県知事、2016年7月2日)、嶺井政治氏(元沖縄県副知事[西銘県政]、2016年12月26日)、宮城宏光氏(元沖縄県副知事[西銘県政]、2016年12月27日)、渡口彦信氏(比謝川ガス創業者、2016年12月29日)。

本インタビュー記録の作成手順であるが、まず録音データを業者に文字起こししてもらい、それを以下の各担当者が録音を聞き直してインタビューの発言箇所を確認・校正した。平良(儀間氏担当)、高江洲(宮城氏

担当)、川手(新垣氏担当)、櫻澤(稲嶺氏担当)、小松(大城氏、平良氏、大田氏担当)、秋山(照屋氏、仲本(興)氏、渡口氏担当)、小濱(仲本(安)氏、比嘉氏、嶺井氏担当)。

その後、インタビューの発言箇所についてはインタビュー本人が校正し、その出来上がった仮原稿を各担当者がインタビューに送付し、インタビュー本人にご確認をいただいた。

その原稿をメンバー間でダブルチェックし、その完成原稿を『戦後沖縄の証言 JSPS 科研費 15K03283 研究成果報告書』というタイトルで印刷・製本し、2017年度の年度末に刊行した(総ページは2段組で460ページ)。

同報告書は国内の大学図書館、沖縄県内の公立図書館、関連分野の研究者などに寄贈した。

今後の課題としては、本共同研究によって得られた証言記録を有効に活用し、アメリカ統治時代の琉球政府を沖縄の戦後史の中に位置づけるとともに、日本復帰後のいわゆる「保守県政」(西銘県政、稲嶺県政)を沖縄の戦後史の中に位置づけることである。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計10件)

平良好利、2つの「壁」から沖縄を考える、歴史学研究、査読無、第971号、2018、2-13

平良好利、沖縄政治における「保守」と「革新」、法学志林、査読無、第115巻第1・2号合併号、2018、47-77

川手撰、琉球政府の道路行政 琉・米・日、政府間関係の「交差点」、都市問題、査読無、109巻4号、2018、92-116

川手撰、戦後琉球政府の国政調査 琉球政府の行政における「日本との連続性」の検証、都市問題、査読無、107巻10号、2016、89-110

櫻澤誠、沖縄現代史のなかの「島ぐるみ」の系譜、歴史学研究、査読無、第949号、2016、20-29

高江洲昌哉、(大山朝常資料所蔵)「軍関係雇用者の賃金引上げ請願決議(和文・洋文)を中心にして沖縄現代史の分析視角を考える、南東文化、査読無、38号、2016、113-127

[学会発表](計5件)

櫻澤誠、戦後沖縄政治史の再検討 西銘県政期の歴史的な位置をめぐって、大阪歴史科学協議会2017年度大会、2017

櫻澤誠、戦後沖縄における政治対立軸の変遷 「島ぐるみ」と系列化のはざま、2017年度占領・戦後史研究会シンポジウム、2017

〔図書〕(計4件)

河野康子、平良好利、吉田書店、対話 沖縄の戦後 政治・歴史・思考、2017、297

櫻澤誠、有志舎、沖縄の保守勢力と「島ぐるみ」の系譜 政治統合・基地認識・経済構想、2016、306

櫻澤誠、中央公論社、沖縄現代史 米国統治、本土復帰から「オール沖縄」まで、2015、366

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

平良 好利 (TAIRA, Yoshitoshi)

獨協大学・法学部・特任助手

研究者番号：40614863

(2) 研究分担者

高江洲 昌哉 (TAKAESU, Masaya)

神奈川大学・外国語学部・非常勤講師

研究者番号：10449366

川手 撰 (KAWATE, Sho)

公益財団法人後藤・安田記念東京都市研究所・研究部・研究員

研究者番号：60559813

櫻澤 誠 (SAKURAZAWA, Makoto)

大阪教育大学・教育学部・准教授
研究者番号：90531666

(3) 連携研究者

()

研究者番号：

(4) 研究協力者

小松 寛 (KOMATSU, Hiroshi)

秋山 道宏 (AKIYAMA, Michihiro)

小濱 武 (KOHAMA, Takeru)